

V衿型作図の着装時における衿の形態について

湘北短大 ○ 本田雪子 東京家政大 神田和子

目的

和服の着装時における衿の形態は、衿型の作図と着装によって決まる。すでに提案したV衿型作図法は、三点図法およびU衿型作図法と同じように着装時の衿付け線を頸椎点からの下り寸法 d_1 と頸側点からの離れ寸法 d_2 を定め、それらによって、上り衿肩明き寸法 l_0 と、上り繰越し寸法 l_1 を採寸する方法である。この方法によって製作した長着の着装時の衿の形態と d_1 、 d_2 との関係を解明する。

方法

前回と同様に、LIRICA9号のスタンドを使用して頸椎点からの下り寸法 $d_1 = 10 \sim 50 \text{ mm}$ 、頸側点からの離れ寸法 $d_2 = 30 \sim 50 \text{ mm}$ について 10 mm 間隔に l_0 、 l_1 を採寸し、それぞれについてV衿型作図を行い、社先点での身頃の衿付け線の傾斜寸法を 10 mm として衿の型紙を製作した。実験衣の縫製は浴衣地を用い衿幅 55 mm の棒衿とした。これらの長着をスタンドに d_1 、 d_2 を指定通り着装し、衿の打合せ点 d_3 を一定にした時の打合せ角、衣紋角、稜角を測定し、それらの衿角と d_1 、 d_2 との関係を検討する。

結果

打合せ角にもっとも影響をおよぼす要因は d_3 で、 d_3 が小さいほど打合せ角は大きくなり、 d_2 の増加につれてゆるやかに増加する。また l_0 が大きくなるにつれて増加する。衣紋角は d_1 の要因によりもっとも影響をうけ d_1 の増加とともに増大する。稜角は d_1 が増加するにつれて増大し d_2 の増加につれて減少する。 $(l_0 - l_1)$ が小さいほど稜角は大きくなる。